

§ 3.2 シニアのアナログ知識を生かす

大高 一躬（会員）

来る3月で10年になるとの事でご同慶に存じます。

小生参加をさせて頂いてほぼ全年を過ごさせて頂きました。遠心分離機の経験で何かお役に立てればと思いつながら、貢献が殆ど無く汗顔の至りです。

会員の皆様は殆ど日本の高度成長、技術革新の華やかな時代を過ごされた方と拝察します。

我々はいわばアナログ世代の人間と言えましょう。技術のアナログ面を少しでも後輩、化学工業界にお役に立てればと念じて居ります。

小生が専門とする化学工学の単位操作の中の遠心分離機の変遷を此の機会に振り返ってみたいと存じます。

- ① 1950～1965年 日本の化学工業界は肥料を主とする無機化学製品の脱水用遠心機の花形時代でした。
- ② 1970～1980年は高分子特に塩ビ、ポリプロ、ポリエチレンをはじめとしてエンブラに至るまで脱水用・遠心分離機の花形時代でした。
- ③ 1980～2000年までは合成プラスチックの時代は去り、公害防止、都市下水用の汚泥脱水遠心機の需要が多く成った時代でした。
- ④ 2000から現代までは公害、排水処理は一段落し、生物化学反応、ワクチン製造、抗体医薬の生産に使用する動物細胞の分離機などの生物化学用分離機が花形になりそうな気配です。

これからの時代はデジタル・ハイテクの時代でしょうが我々シニアのアナログ知識も活躍でき評価を受けるように努力してまいりたいと存じます。